

【お店屋さんごっこ】

何十年も前からある遊び。物を包んだり、食べものを袋に入れたり、どうぞと渡す。お金を扱う、レジスターを触ってみたいと、やりとりすることに憧れながら遊んでいた。

お金が、カードレス決済になり、電子音があちらこちらから聞こえる。だからこそ、自然を五感で感じ、やりとりして、子どもと遊びを創り出したいと思う。なので、おとなの役割としては、お金のやりとりをする消費者よりも、あえて生産者を演じたいと思う。

菜園活動や食材に触れる経験から、お店屋さんごっこが発展したり、フードコート風に、好きなものをつくって並べてみる。子どもとのみたて・つもりあそびは柔軟でたのしい。

。さつまいもでおやつづくり



葉が伸びすぎた大根も甘かった

【子どもと「認知症」との出会い】

私の市では小学4年生で認知症について学ぶ講座を実施している。私もキャラバンメイトとして子どもたちとともに「認知症」について考えている。

講座は2時間続き。1時間目に認知症についての基礎知識を学んだ後、症状が出てきたおばあちゃんと家族の様子をアニメや寸劇で観る（寸劇には子どもたちも参加）。そして2時間目に、その寸劇の中での「おばあちゃんはどんな気持ちだったんだろう」「自分だったら、どう接したいかな」ということを考えていく。

子どもたちは、おばあちゃんの戸惑い、怒り、悲しみ、不安をしっかりと感じ取り、自分だったら「（同じことを何度も言われても）怒らず何度も答える」「笑顔で接する」「自分たちがいるから大丈夫だよ、と伝える」「特別扱いしない」「手をつなぐ」「どうしてほしいか聞く」等々、いろんな思いを出しあう。そして、これらはすべて自分ならどうしてほしいかの裏返し。ということは…認知症になっても「気持ち」は変わらない、相手が認知症であってもなくても人とのコミュニケーションの基本は変わらないんだということに気づいていく。子どもたちの力を感じて、毎回ゾクとするほど感動する場面。

最後に子どもたちへの感謝を伝え、認知症になっても大丈夫と言えるまちを一緒につくっていきたい、と伝えている。（K）



1983年発行冊子の表紙

共同子育てトーク ゆっくり「はなす」をしてみませんか？

テーマ：「子どもとの暮らしあれこれ」

日時：2024年11月1日（金）13時～14時半

場所：HRCビル402号 大阪市港区波除4-1-37

対象：どなたでも

Zoom参加を希望される方も、前日までに下記に連絡ください。

公益社団法人子ども情報研究センター 「共同子育て連絡会」  
 メール：[renraku@koioken.jp](mailto:renraku@koioken.jp) 合田由紀子 南田安紀子 国松祐子  
 電話：06-4708-7087 住所：大阪市港区波除4-1-37 HRCビル5階

## つどいの広場 シュッポップすみよしの ミーティングに参加して

親支援のポスターをつくったので、広場で活用してくださいと、他県のNPOから広報を受け取ったけれど…どう思う？と、意見交換しました。

- ・ポスターは区や市からの情報だけで十分。
- ・親の気持ちに寄り添った内容だけれど、自分たちがタイミング見て声かけたり、話したい。
- ・〇〇さんに言ってもらった言葉が響いたから、私はメモっているんです。
- ・自分が言葉の引き出しを増やせたらいいな。
- ・このポスターに、しっくりくる気持ちの人もあるかもしれない。
- ・貼っておしまいっていうのも違うね。
- ・自分たちが今こうして話している様に、広場の参加者さんとも話すのはどうかな。
- ・区や市からのポスターも、内容はどうだろうと話してみたらいいかもしれない。
- ・ダウン症の孫がいるので、息子がインスタに「障害」と書くことが増えた。私としたらどうしても「害」が受け入れられずに「障がい」と書いてと伝えると「障害者が生きていく上で絶対にこれからは障害にぶち当たるだろうから、この字でエエねん！健常者が勝手に決めた`障がい者`というのに違和感」だと。私も息子も成長させてもらっています。



## 『おじゃまんぼう』報告

### 子ども情報研究センターって？！

以前は、センターのパンフレットがりましたが、最近見なくなっていました。センターってこんなところと説明するのにやっぱりあった方がいいのではと部門別連絡会議でも話が出ました。

自分たちの活動をわかってもらおうと、各部門が何をしているのか内容を羅列してしまうと、そこには自分たちの伝えたい思いが表せません。それならば思いを中心に作ってみようということに。どれもこれも大事にしたいと、思いは溢れ出てきます。設立趣旨書、倫理綱領、なによりも外せないのは子どもの権利条約。あれもこれも入れたいけれど、よりシンプルに尚且つ、理解してもらいたい、つながりたいと意見を出しあいました。

途中で、子情研って？と出しあってみると

「子どもの人権を大切に活動している」

「市民が参画できる」

「互いに人を受け入れる出会い」

「どんな意見・提案もできる」

「自分の価値観を揺さぶられる」

「揺さぶられるのがまなびかな」

「知恵を出しあうおもしろさ」etc

～自由・平等・基本的人権を

希求する市民の拠り所としてのセンター～

0歳からの子どもとともに創り出したいです。

## ビューティフルネームを歌おう

子ども情報研究センターで広報画像をつくることになりました。画像と言えば曲が大事となり、1979年の「国際児童年」協賛歌、ゴダイゴのビューティフルネームが候補に上がりました。子育て中の人3人に声をかけると「小学生の時に授業で歌ってて曲が好き」「さびの部分だけ知っている程度だけれど」「英語の部分が気に入って歌っていたから」と、録音させてくれることになりました。

練習におじゃまんぼうして一緒に歌う出会いのひとときがたのしかったです。

自分の名前があまり好きではなかったのですが、ちょっと好きになったワクワクの気持ちももらえました。

皆さんも、誰かと歌ってみてね～

## 共同子育て連絡会の仲間募集中！

仲間と話すと、個人の問題（悩み）が、社会的な問題でもあると気づきます。共通の問題として語り合える場は、ひと息つける、前を向ける場になっています。

『共同子育て』というのは、親が解放されたいとか、子どもが仲間と遊ぶ場を増やすだけでなく、社会の中での自分たちや子どもたちのおかれている姿（現状）を、一緒に考えていこうということです。

ご連絡お待ちしております。